

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h3>1 一人一人の児童生徒の尊重</h3> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<h3>2 友達への思いやり</h3> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<h3>3 道徳・心の教育の充実</h3> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p> <p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>「4」「3」の割合が保護者・児童共に97%以上といことから概ねできているといえるが、「2」の回答も見られる。これに対し教職員の「4」「3」の回答が100%ということから、より一層子どもたち一人一人と向き合い、子に応じた支援・指導の充実に努めたい。</p>	<p>児童の「4」「3」の割合が100%であった。縦割り班での活動や毎朝の遊びなど、学年を超えたつながりが強いことが良い結果に繋がっていると思われる。保護者と教職員に「2」の回答があるように、学級では日々の小さなトラブルが続くことも多く、これまで通り子どもたちの話にしっかりと向き合っていきたい。</p>	<p>保護者の「4」「3」の割合が98%となり、日頃の子どもたち一人一人との関わりや、道徳の授業での取組を学級便り等で啓発ができつつあると感じる。今後も、考え、議論する道徳の推進を図り、心の教育の充実に努めていく。</p>

②確かな学力を育む教育の推進

<h3>4 意欲的な学習態度</h3> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<h3>5 授業力向上</h3> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<h3>6 ICT活用</h3> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>全体的に見て意欲的に取り組んでいると言える。しかし教職員は「4」「3」の割合が100%に対し、保護者・児童には「2」の回答が見られる。このことからどの子どもたちも心から意欲的に授業に取り組みたいと思える、一人一人を大切にしたい授業づくりに努めたい。</p>	<p>保護者・教職員共に「4」「3」の割合が100%となっているが、児童にとっては「2」の回答もあり、「わかる」「楽しい」授業になっていないという実態がある。今後も研修を重ね、児童の「なぜ」「やってみよう」を引き出し、自分たちで課題を解決したという実感をもちつつ授業づくりに努めていきたい。</p>	<p>タブレット端末を活用して学習を進めているという意識が大半を占めているが、一部あまりそう思わないご家庭もある。家庭でのタブレットの使い方も含め、効果的な活用の仕方をさらに指導していく必要がある。</p>

③健やかな体を育む教育の推進

<h3>7 健康づくり</h3> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<h3>①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <h3>8 児童生徒理解</h3> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>概ね85%の子どもたちは、食事、運動、睡眠に機をきながら日常生活を送っているが、昨年度に比べて「そう思う」という割合が減っている。就寝時刻が遅くなっている子や食品の好き嫌いを減らす子がおり、子どもたちの様子を伝えながら保護者との連携を図っていききたい。</p>	<p>児童理解の時間や職員同士の会話の中で、一人一人の課題や家庭背景を共通理解している。頑張っている児童、気になっている児童には、全職員で声かけを行ない、一人一人が認め合える学校の雰囲気づくりに努めている。保護者、児童のなかに「2」「1」という意見もあったため、より一層の児童理解に学校全体で努めていきたい。</p>

④特別支援教育の推進

<h3>①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <h3>9 いじめや問題への対応</h3> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<h3>10 学校の支援体制</h3> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<h3>11 共生社会を担う人材の育成</h3> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>前年度とほぼ横ばいの結果であった。児童の「1」「2」の回答の割合が若干上がっている。児童理解の時間や教育相談の時間を積極的に活用し、児童が教職員に相談しやすい学校にしていく必要がある。</p>	<p>保護者の「4と3」の割合が10%増加し90%を超えたが、教職員の割合が減少した。特別支援教育コーディネーターを中心に支援の共通理解を図っていき、教職員や、保護者や、関係機関とさらに連携しながら進めていきたい。</p>	<p>保護者に割合的には低いものの「2」が見られる。学校全体で、学習の様子や日頃の子ども同士の関わりがわかるような発信を行い、保護者への理解が広がるようにする。また、学校全体として、児童同士の相互理解もより一層深まるような取り組みを日頃から意識して行っていきたい。</p>

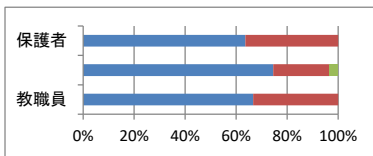
⑤子どもたちの身近な安全対策の充実

<h3>12 安全と事故防止</h3> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<h3>13 施設・設備の安全管理</h3> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>避難訓練を休み時間にも設定し、児童や教職員の判断力と対応力アップを狙っている。昨年度に比べ、保護者の「2」「1」の回答が無かった。いつでもどこでも自分の身を守る最善の方法を考えて行動が取れるように、年度ごとに状況を変えながら訓練を重ねていく。</p>	<p>昨年度と比較して、保護者の「4」の割合が増加している一方で、教職員の「4」がまだまだ低いという結果は、教職員が安全意識を高く持ちながら日々の教育活動にあっている結果であると解釈した。今後も、毎日が安全点検であるという意識で管理していきたい。</p>

②最適な学習環境の整備

14 教育方針・目標の理解

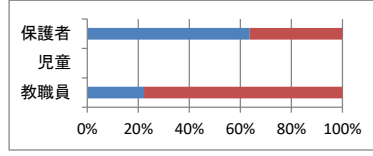
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



保護者の「2」「1」の回答がなくなり、「4」が9%上昇した。学校たよりの発行数が大幅に増加したこと、学級通信の内容が連絡や子どもたちの様子を伝える内容にシフトしてきたこと等が要因と考えられる。本校の教育方針や目標が浸透している手ごたえとなる調査結果であった。

15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

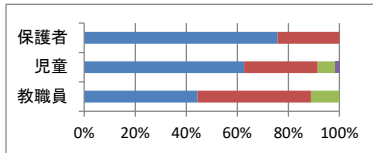


保護者の「4」の回答に比べ、教職員の「4」が著しく低い。昨年の教職員データと比較すると、32%低下している。コロナ禍により、行事や懇談会等、保護者と直接対話できる機会が長期開けていないことが主な要因であると考えられる。ICT等を活用した代替措置も検討していきたい。

本校の教育

16 1

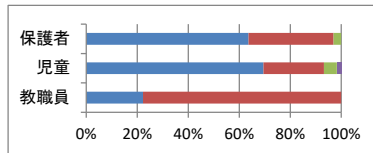
先生方は、「自己有用感に裏付けられた自尊感情」を高める取組をしていると思いますか。



保護者、児童共に高い水準だが、教職員で2の評価がやや多い。自尊感情に関わる年間カリキュラムを活用し、全員で確実な取り組みできるように周知を図っていく。

17 2

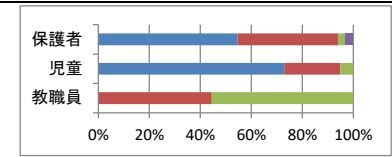
先生方は、校内研究の視点を大切に授業改善を行っていますか。



保護者・児童に「2」「1」の回答があることや、教職員の「4」の割合が低いことから、研究の視点がまだ定着していないことが伺える。しかし、授業改善の意識は高まっているため、今後継続して取り組むことで、児童にとっても楽しい授業につながっていくものと考えられる。

18 3

子どもたちは、進んで挨拶していると思いますか。



保護者と児童の90%以上が挨拶をしていると実感している。しかし、教職員が挨拶をしなければ挨拶をしない、挨拶を返したとしても、声が小さいなど、個人差が大きい。今後も、率先垂範で教職員から挨拶を行なうとともに、挨拶の大切さを語りかけ、学校全体で心を届ける挨拶の実践を行なっていく。

来年度の具体的な取り組みについて

- ・今年度、全校児童61人という少人数校の実態を生かして、児童一人一人を大切に教育を行ってきた。
- ・経営の方針である「3つのワークによる『学校が楽しい、授業が楽しい、みんな大好き』笑顔の本荘小（3つのワーク チームワーク・ネットワーク・フットワーク）」をすべての教育活動の中で意識しながら教育活動を行った。
- ・全ての調査を通して評価が高かった項目は「いじめや問題への対応」であった。（「そう思う」が児童86%、教職員89%）次年度は、さらにきめ細かい見守りや調査を行いながら、さらに高い数値を目指していく。
- ・児童の「そう思わない」「どちらかといえば、そう思わない」が多かったのは「7 健康づくり」に関する項目である。同様に、保護者からの「そう思う」が一番低かったのも、この項目である。就寝時間の遅さ、食べ物の好き嫌い等、課題を明確にした上でこれまで以上に家庭と連携しながら指導改善につなげていきたい。また、コロナ禍による運動不足も考えられるので、全校体育の充実や外遊びの推奨など工夫していきたい。
- ・「校内研究の視点を大切に授業改善」では、児童から「そう思わない（1%）」「どちらかといえば、そう思わない（5%）」という評価があった。これを解消するために研究主題である「笑顔がかかり合い、さらによりよく生きようとする子どもの育成」を目指して授業改善を行う。具体的には、仮説や研究の視点の見直しを行い、全職員で目標とする授業イメージを共有できるようにしていく。
- 児童の挨拶に関しては、児童、保護者、教職員、学校評議員それぞれから課題が指摘された。全てが一体となって挨拶の励行を進めていきたい。

学校関係者評価

- ・今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、PTA活動が計画されたものの、実行できない事業が多くあった。
- ・本荘小にて不登校オンライン授業が開始されたため、PTA室を移動する必要が生まれた。PTA役員を招集し、保管物品、廃棄物品を仕分けして教室の移動を行うことができた。
- ・入学式や運動会等の行事で挨拶を行った。3月発行（予定）のPTA新聞のために、写真を集め情報発信を行った。
- ・PTA役員の定例会は基本的に月に1回対面で実施することができた。感染拡大状況によっては、ZOOMを活用し、月に1回の定例会を滞りなく実施することができた。
- ・次年度も、こうした経験を踏まえて、さらに学校職員と保護者、地域の代表者との連携を深めていきたい。
- ・児童の挨拶には、個人差が大きい。学校には、今後もさまざまな教育活動の中で、挨拶の大切さを伝えていってほしい。さらに、保護者も家の近所など可能な場所に立ち、登下校を見守りながら挨拶の奨励を行ってほしい。
- ・今後も、本荘小の良さである子どもたち同士、保護者同士の顔がわかる関係づくりを大切にしていきたい。本荘校区の伝統を大切にしながら、新しい学校づくり、地域づくりに貢献していきたい。